

教育・保育理念			令和 4年度重点目標		
・自分も友だちも大切に作る心の育成・学びの芽の育成・自分の可能性や能力の発揮			・愛されていると感じ、自尊感情を育む ・好奇心をもって意欲的に遊びを楽しみ、遊びを通して学ぶ ・こども園、幼稚園、小学校が連携し、学びと育ちをつなぐ ・地域とのつながりをより一層深める		
園のスローガン					
「わたしもだいじ あなたもだいじ みーんなだいじ ～子どもも大人も仲間と共に育ち合おう～」					
重点目標	重点目標に向けた具体策	評価項目	自己評価		こども園関係者評価
教育・保育内容	育児担当制を実施する。乳児担当者研修を行い、乳児の担当制について学ぶ。	大人との愛着関係や安心感のもと、人を信頼し生きていく力の土台を形成する	A	一人一人の園児の思いに寄り添い、乳児は緩やかな育児担当制をし、安心して生活や遊びが出来るよう丁寧に関わってきた。また「みんなちがっていい」という視点を大切に友だちの思いに気づいたり、一人一人の違いを認め合ったり、仲間を大切に作る集団作りを心掛け、愛着研修も行った。年長児は多様性を意識し、教育・保育の中に様々な国の多文化に触れる機会をもつようにしたり、手話等にも触れた。	A A B A A
	自尊感情を育てるために異年齢交流を行う。	園児の表情や行動を温かく見守りながら、思いを受け止め自尊感情を育てる 様々な経験を通して、協調性や思いやりの気持ちを育てる 園の様々な人との交流を通して、自己を発揮したり、認められる経験をする お互いのことを認め合い、共に育ちあう仲間づくりを行う(国籍・ジェンダー・障害等)	A A B A A		・多様性については今後の教育の場でしっかり子どもたちに伝える必要のある項目です。園児のうちから指導されていることに驚きました。 ・先生方のご苦労を思うと頭の下がる思いです。 ・個性を尊重してくれ受け入れてくれ子どもたちの自信につながっています。
	子どもたちが意欲的に遊びを楽しみ遊びを通して学ぶための、年齢にあった環境整備や教材研究を行う。特に描画については園内研修で学びを深める。	自然とのふれあいや実体験を大切にし、生活や遊びの中での学びを保障する 園児の意欲や探求心などを引き出す、保育教諭の関わりを大切にする 園児の興味・関心に基づき教材準備を行い、園児が主体となり自ら関わる環境を整える	A A A	3つの園庭を活用して体づくりや集団遊び、四季を通して自然との触れ合いを教育・保育に計画し、十分に経験できるようにしてきた。特に全年齢で取り組んだ竹を使った遊びでは他職種の職員と連携をとり園児が主体的に遊べる環境を整えたことで各年齢の遊び方や楽しみ方の違いや遊びの面白さを学ぶことが出来た。豊かな経験から興味が広がり、自分で考えたり、図鑑で調べたりする姿につながった。	A A A
	発達をおさえた「学びのシート」を作成する。	あそびの中で思考力や集中力を養い、成功体験や失敗体験からの学びを大切にする	B		・子どもの興味・関心を基本として、様々な経験を準備したり、主体的に子どもたちが動く姿は感動します。 ・子どもの苦手な野菜も自分たちで育てた野菜は食べれるようになったり、家でできない自然とのふれあいやよい体験だと思えます。
	公開保育を行い、環境整備や活動について学ぶ。	生活やあそびの中で体づくりを意識した活動を展開する	A		
小学校との連携	行事や散歩などを通して小学校へ行ったり、体験学習や委員会活動など小中学生を受け入れたりして子ども同士の交流をする。	小学校児童と年長児との交流や体験学習の受け入れ、小学校への散歩等意識して交流する	B	園庭から小学校が見え児童の声が聞こえてきたり、二次避難先ということもあり「お兄ちゃんたちが手を振ってくれた」「学校や～」と自然と『学校』を意識した園児の会話が聞かれた。また小学校との連携では、今年度は授業の見学に行かせていただき、タブレットを使用しての授業風景や授業の内容を知り、職員間で共有できた。保幼小の研修に参加することで就学前教育について改めて考える機会となった。	A A B A
	小学校の授業を見学し小中学校教育への理解を深める。 園の公開保育、就学相談等の機会に職員間で交流を図る。	授業見学、地域の会議等の連携を通して小学校の教育について学び、理解を深める 乳幼児期に育てたい力が小学校以降の学びにつながるような指導計画を作成し実践する。 公開保育を行い、園の教育・保育について意見交流を行い、接続期の教育・保育の質の向上につなげる	A B B		・コロナ禍の中でできることを手探りで行っていました。小学校とも協力しながら連携してほしいです。 ・小学校見学は園児たちが就学への関心が持てるので今後も取り入れてほしいです。 ・小学校との連携を深め、就学前教育を強化してほしいです。
	地域行事へ職員や子どもが参加する。	地域の行事に職員や子どもが参加し、地域に園の教育・保育を発信する	A	助産師さんによる『命の授業』、保護者が所属する手話サークルの方との交流や区民まつりへの参加を通して地域との触れ合いができた。また地域の子育てサロン『かるがも』への子育て支援を主任と新採職員で参加することで地域との連携やつながりを経験することができた。	A A A A
	こども園行事へ地域の方を招待する。	園の行事を通して地域の方と交流し、豊かな人との関わりを行う	A		・次年度は子育てサロン「かるがも」でコロナ感染以前のようにミニコンサートをお願いします。
地域との連携	地域子育て支援の取り組みをする。	地域の関係機関や団体等と連携、協力を図り、適切な子育て支援を行う 園の機能を発揮し、職員が地域子育て支援に関わり、遊びや情報を提供する	A A A		
	職員の資質向上をめざす	互いの実践から学びあい、園の教育・保育について意見交流し、園の教育・保育の質の向上を図る	A	「環境づくり」「自然あそび」の園内研修をキャリアのある職員がリーダーとなって研修を進め、ビデオや公開保育を行い、実践を通して学ぶことで経験の少ない職員を含めて園全体のスキルアップにつながった。またフォトニュースや学びのシートを10の姿を意識して作成することで保護者への教育・保育の可視化や自己評価ができた。	A A A
	公開保育・園内研修で実践検討等を行い教育・保育を学びあう。	職員同士の交流や情報交換を円滑におこない、園児の学びと育ちをつなげていく	A		・研修は学校運営の基本だと考えます。実行性のある研修で子どもたちの学びにつなげてください。 ・自己評価に同意です。
上をめざす	学びのシートの作成を通して、5領域と10の力を意識した教育・保育を学ぶ。	5領域と10の力を意識した教育・保育を学びあい、計画・実践し、教育・質の向上を図る	B		

今後の取り組むべき課題

*評価について A…達成している B…おおむね達成している C…取り組みが不十分である

課題	具体的な取組方法	園長より
異年齢交流の充実	コロナ禍前での取り組みやコロナ禍で工夫してよかったことも取り入れながら、1つ1つねらいや目標を確認しながら無理のない異年齢での交流を考える	職員間での話し合いを大切に教育・保育の工夫をしながら園の特色でもある自然をテーマに豊かな経験ができるよう教材研究や環境づくりをしてきました。今後も更に子どもたちの可能性を引き出す教育・保育をすすめていきたいと思っています。ありがとうございました。
園児が主体的に学ぶ教育・保育の実践	引き続き園内研修で「環境づくり」「自然あそび」のテーマでグループごとに実践を出し合い、園児が主体的に遊べる環境や教材の工夫を学ぶ	